

▼アンプリット錠 [内]

【重要度】 【一般製剤名】ロフェプラミン塩酸塩 lofepramine hydrochloride 【分類】三環系抗うつ薬

【単位】▼10mg・▼25mg/錠

【常用量】初期量1回10~25mg1日2~3回, 維持量150mg/日まで漸増

【用法】分2~3

【透析患者への投与方法】減量の必要なし (5)

【保存期CKD患者への投与方法】減量の必要なし (5)

【その他の報告】慎重投与 (1)

【特徴】活性代謝物デシプラミンとして作用し, 主にノルアドレナリンの再取り込みを阻害する三環系抗うつ薬

【主な副作用・毒性】口渇, 便秘, 眠気, ふらつき, 悪性症候群, 麻痺性イレウス, SIADH, 運動失調, 消化器症状など

【tmax】1hr (Ghose K and Spragg BP: Int Clin Psychopharmacol 4: 201-15, 1989)

【代謝】代謝物デシプラミンで未変化体と同等の活性があるが, 2-水酸化デシプラミンの活性はごく弱い (1)

【排泄】尿中回収率30% [72hr まで], 尿中未変化体排泄率0.01~0.04% [24hr まで] (1) デシプラミンとしての尿中未変化体排泄率0.1% [24hr まで] (1) ほとんどグリシン抱合体として尿中に排泄 (Forshell GP: Xenobiotica 7: 153-63, 1977) 胆汁中に30%が排泄 [48hr まで] (1)

【t1/2】未変化体2.7hr, デシプラミン3.4hr (1) 未変化体2.5hr (Ghose K and Spragg BP: Int Clin Psychopharmacol 4: 201-15, 1989)

【蛋白結合率】99.3% (1)

【Vd】中枢移行する (1) Vdは大きいと思われる (5)

【MW】455.43

【透析性】透析されないとされる (5) データなし (1)

【相互作用】MAO阻害剤と併用禁忌 (1) 抗コリン剤, アドレナリン, 中枢神経抑制剤等との併用注意 (1)

【更新日】20151104

※正確な情報を掲載するように努力していますが, その正確性, 完全性, 適切性についていかなる責任も負わず, いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし, それらを利用した結果, 直接または間接的に生じた一切の問題について, 当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は, 日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。